

令和7年度 県立磯原郷英高等学校自己評価表

目指す 学校像	阿武隈の山並み、常磐の大海原と豊かな自然に恵まれ、近代文化発展の先駆けとなったこの地で、地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、新しい学校文化を創造するとともに、知性、徳性、体力の調和のとれた人間性やひたむきに物事に取り組む姿勢を養い、適性や能力に応じた生徒一人一人の自己実現と、地域、日本そして世界の明日を担う有為な人財の育成を目指す			
三つの方針		具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	地域の伝統及び文化を継承し、地域と共に生き、新しい学校文化を創造するとともに、知性、徳性、体力の調和のとれた人間性やひたむきに物事に取り組む姿勢を身につけた、地域社会の活性に貢献できる資質・能力を備えた人財の育成		
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	・多様な学習ニーズに対応できる教育課程の編成 ・キャリア教育を中心とした、生徒一人一人の適性と希望に応じた進路を実現するための学びの環境の構築		
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)	校訓「真摯にしまなざし高く」を実践し、学校や社会の規範を遵守し、学校内外問わず何事にも、積極的にひたむきに取り組む意欲のある生徒		
昨年度の成果と課題		重点項目	重点目標	達成 状況
<p>令和6年度の進路実績において、就職希望者の内定率は 95% で高い水準であるが、希望が叶わなかった生徒も見られた。進学希望者においては、進学決定率が 100% であった。多様な進路希望を実現するための支援のため、生徒の個に応じたきめ細かな進路指導をより効果的に展開する必要がある。</p> <p>学習面では、多くの生徒が授業へ意欲的に取り組んでいるが、家庭学習などの主体的に学びに向かう姿勢を見せる生徒は少なく、個別に支援が必要な生徒も見られる。生徒が学習に集中して取り組み、生徒の学びが、主体的な学び、協働的な学び、探究的な学びとなるように授業内容の工夫と改善を図り、生徒の学力の定着と向上を図る必要がある。</p> <p>課外活動では、部活動において県大会で活躍し、関東大会に出場する部活動もある一方で、活性化が必要な部活動も見受けられる。生徒が学校行事の企画運営や部活動等に主体的に取り組むことができるよう支援し、今後も地域から期待され、信頼される学校づくりに努力していかなければならない。</p>		探究的な学び、協働的な学びをとおして生徒が確かな学力を身につけるための授業実践	①「生徒の知的好奇心を刺激するよう、学びの内容や進め方を工夫している。」と感じる生徒90%以上 ②「私はじっくりと考え、友人と対話しながら授業に取り組んでいる。」と回答する生徒90%以上 ③「私は知識が深まり、能力が高まるよう、授業に全力で取り組んでいる。」と回答する生徒 90%以上	B
		ICTの効果的な活用による教育の質の向上	④タブレットや電子黒板を効果的に活用し、生徒の学びが協働的な学びや個別最適化された学びとなるよう、授業改善を図る ⑤「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している。」と感じる生徒 90%以上 ⑥「生徒の学習状況を把握し、一人ひとりに適切にアドバイスしている。」と感じる生徒 90%以上	B
		ひとり一人の適性と希望に応じた進路実現	⑦地元企業や地域住民、県内の上級学校との連携など地域の教育力を活かして、「進路に関する行事や進路情報の提供が適切に行われている。」と感じる生徒85%以上 ⑧「進路に関する指導・相談がよく行われている。」と感じる生徒85%以上 ⑨就職希望者の就職内定率100%達成 ⑩四年制大学、医療看護系専門学校 の合格者数 10 名	B
		自律した生徒の育成	⑪集団生活における自己の役割と責任を自覚させ、社会のルールやマナーを守りながら主体的に行動できる力を育成する ⑫チャイム着席等のルールや、身だしなみを常に意識させることで、秩序ある学校生活を送ることができるようにする ⑬「生徒は校則や学校の約束を守っている。」と感じる生徒 70%以上	C
		地域社会に貢献できる人財の育成	⑭「あ・そ・ぶ・べ・な」(挨拶、掃除、部活動、勉強、仲間づくり)の行動指針を実践させる ⑮地元企業や地域住民との連携など地域の教育力を活かした活動をとおして、地域の一員であることの自覚を高め、併せて地域社会で役立つ力を育成する ⑯「生徒は学校生活に対していきいきと意欲的に取り組んでいる。」と感じる生徒 80%以上	C
		教職員の在校時間の顕在化と業務の効率化の推進	⑰授業やその準備にICTを効果的に活用するなどして業務の効率化を図り、時間外在校時間の月平均時間を 15 時間以下にする ⑱分掌等の校務にICTを効果的に活用するなどして放課後等の会議や打合せ等を精選するなどの業務改善を図り、時間外在校時間の月平均時間を 15 時間以下にする	B

別紙様式 2 (高)

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度(学期)への主な課題
教科指導	確かな学力の育成	授業目標を明確にし、目標達成のために協働させるなどして知識の習得を図る	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・授業目標の生徒との共有は図れた。次年度は、生徒が主体的に学ぶことができる目標設定と授業の進め方のさらなる改善を進めたい。 ・生徒個人端末を活用した学びの知見をさらに深め、確かな学力の育成につなげたい。
	主体的に学習に取り組む態度の醸成	学習課題に興味関心を持つよう、学びの内容や進め方を工夫する	B		
	ICTを活用した授業の実践	ICTを効果的に活用して授業の効率化を図るとともに、学びの場面において生徒が探究的な学び、協働的な学びが実践できるよう授業改善を図る	C		
		全教科全教員による互見授業を実施し、教科研修等を行う	B		
教科	国	基礎的・基本的な知識技能の確実な習得と表現力の育成	漢字力や語彙力を向上させるため、チームティーチング授業、小テスト等を実施し、国語科の知識や技能が深まったと回答する生徒が80%以上とする	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎、基本の学習を重点的に進める ・ICT機器を効果的に活用する ・科内の共有教材を増やすとともに、活用しやすいように工夫改善する
		生徒の実態に合わせた作文指導及び課外指導を行ない、表現力が向上したと回答する生徒が80%以上とする			
	語	主体的に学習に取り組む姿勢の育成	授業開始の準備を整えてから授業を実施する。チャイム着席、準備完了の生徒を90%以上とする	A	
			ノートや課題の提出を定期的に行ない、成績不振者に対し早期の対策を図り、不振者指導対象者を10%以内とする		
		ICTを活用した授業展開	電子黒板等を効果的に活用するとともに、生徒がICTを活用して協働的に学ぶ授業を展開し、授業がわかりやすいと感じる生徒が80%以上とする	B	
	地歴・公民	基盤となる力(学力・学びに向かう姿勢)の向上	グループ学習やペアワークを取り入れ、生徒同士が教え合い、学び合う環境を構築する	A	
			家庭学習の習慣化を促すため、課題の質と量を適切に調整し、提出状況に応じて個別指導を行う	B	
		ICTを活用した個別最適な学びの実践	生徒の興味関心に基づいた探究学習を推進する中で、ICTツールの活用を促し、個別指導や進捗管理を適切に行う	B	
			Googleクラスルームなどを積極的に利用し、生徒がいつでも質問できる環境を整備する	C	
		「わかった」が実感できる授業の展開	授業の最後に本日の授業で学んだことを一言で表現させる活動を取り入れることで、授業内容を整理する時間を設ける	B	
			学習の前後で実施したルーブリック評価において、向上した生徒が70%以上を目指し、授業改善に取り組む	C	
	数	確かな学力の向上	基本的な計算能力、数学的思考力を育成し、教科書の知識の確かな定着を図る。定期考査の平均点が30点以上の回が全体の60%	A	
学びに向かう姿勢の定着		定期考査やそれに向けた課題を通して、学習に取り組む姿勢、習慣を定着させる。課題の提出率70%	B		
ICTを用いた授業の実践		ICTを活用し、授業を効率的に行うとともに、図形やグラフなどを可視化し、生徒がそれらを直接編集、操作できるようにする授業を年間5回以上行う	B		
理科	確かな学力を身につける授業の実践	ICT機器を活用しながら、科学に対する興味関心を高める工夫をし、主体的に理科の学びに向かう姿勢を育む	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着と改善を目指した指導 ・ICT機器活用の支援体制の充実が必要 ・体験や実験の充実とリスクマネジメント 	
		タブレット等で基礎問題を繰り返し解くことによって、確かな学力の定着と向上に努め、十分ではない生徒にも確かな学力を身につけさせるため補習等の支援を行う			
		学習内容の定着のため、生徒が対話や質問ができる機会を設ける			
	学習習慣の定着	ノートや課題の提出を定期的に行うことで、学習習慣の定着を図る	B		
授業改善	授業公開や生徒アンケートを実施し、授業内容・方法等について教科内で定期的に研究協議する	A			

別紙様式 2 (高)

保健体育	豊かなスポーツライフの基礎を培う授業実践	多くの種目に触れるとともに、同じ種目やチームの仲間と協力しあいながら協働して課題を解決する能力を育成する	A	B	・体育での ICT 活用
	ICT を活用した授業へ改善を図る	保健・体育において ICT を効果的に活用して、生徒が探究的・協働的な学びができるように授業改善を図る	C		
芸	協働的な学びによる表現力の育成	基礎的な表現技能を段階的に身につけられるよう、わかりやすい言葉と具体例を用いた指導を行う	B	B	・ICT 機器を用いた効果的な記録や振り返り方法の確立 ・グループ活動の活性化、編成方法の工夫 ・アナログとデジタルの組み合わせによる学習支援の工夫
		少人数のグループ活動を取り入れ、生徒同士が対話しながら芸術表現を高め合う協働的な学習場面を設定する			
		芸術作品の背景や基本的な構造について、生徒の理解度に合わせた解説を行い、芸術への興味・関心を高める			
	個に応じた指導による芸術活動意欲の向上	生徒の適性や進度に合わせた個別指導を充実させ、成功体験の積み重ねによる自己肯定感の向上を図る	B		
		生徒の実態に応じた教材と指導法の工夫により、全ての生徒が達成感を得られる授業環境を整える			
	ICT 活用による主体的な芸術学習の促進	少数のタブレットを効果的に活用するためのグループ学習の工夫と、全員が参加できる学習形態を構築する	B		
視聴覚資料を活用して芸術の特徴を視覚的・聴覚的に理解させる授業展開により、学習内容の定着を図る					
ICT 機器を用いた作品の記録と振り返りの機会を設け、自己評価や相互評価を通して表現技術の向上を支援する					
英	確かな学力の育成	既習事項の確認を随所に配置した授業を設計することで、知識・技能の習得を図る	B	B	・パフォーマンステストの頻度を上げると同時に内容の質の向上を図っていく ・リフレクションシートや授業ノート等のデジタル化を進め、タブレット使用を生徒に習慣化させることによって使用率 100%を目指す
		小テストを定期的実施することで確かな学力の定着を図るとともに、主体的に学びに向かう態度を育成する			
	主体的・対話的な言語活動の充実	英語4技能の向上のため、パフォーマンステスト等を活用し、生徒の主体的・対話的な言語活動を充実させる	C		
		ペア、グループワークを積極的に取り入れ、生徒の学びが協働的な学びとなるような環境を整える	B		
ICT 等を活用した「わかる授業」への授業改善	生徒が成功体験を積むことができるよう、スモールステップを意識した授業となるよう改善を図る	B			
	ICT を活用して生徒の視覚的・聴覚的な学習補助を行うと同時に、生徒自身が各種ツールを適切に使用できるようにすることで、生徒の学びが深い学びになるよう改善を図る				
家庭	自律した生活に必要な基礎的・基本的な知識と技術の習得	授業計画を周知するとともに、声かけを積極的に行い、授業開始等の厳守を図る	B	B	・生徒が授業の中で挑戦できる課題を再検討し、生徒の実態に合った課題を設定する
		タブレット、電子黒板等の ICT 機器を活用し生徒が視覚的に理解できるようにして、授業アンケートで「コンピュータやタブレットなどを活用し、学びの進め方を工夫している。」と感じている生徒 90%以上を目指す			
	課題解決型学習による、生活の営みに係る見方、考え方の育成	ホームプロジェクトを行うことを通して、課題解決能力を身につけさせる	B		
		課題解決型学習を通して探究力を身につけさせるために、生徒がチャレンジする課題を設定しながら、授業アンケートで「生徒が課題に取り組む時間を設けている。」と感じる生徒 90%以上を目指す			

別紙様式 2 (高)

情報	ICT 活用の基盤となる力の向上	タイピング練習ソフトの導入し、速度や正確性などの目標設定を明確にしたうえで練習に取り組ませる	A	B	・小規模校支援型遠隔授業の初年度の反省を生かし、よりスムーズに授業を実施する ・情報モラル教育を充実させ、SNS やネット上の問題行動の未然防止につなげる工夫
		Office 系ソフト(Word, Excel, PowerPoint)の基本機能習得のための課題作成を行う(レポート作成、データ分析、プレゼンテーション資料作成など)			
	情報モラルの育成	SNS 利用におけるリスクと対策に関するロールプレイングを実施する	C		
		生徒自身が経験した、あるいは身近で起こった情報モラルに関わる事例を共有し、議論する			
	プログラミング的思考・能力の育成	プログラミング学習の前後で実施したルーブリック評価において、向上した生徒が70%以上を目指し、授業改善に取り組む	B		
	商業	確かな学力の育成	授業内容の工夫と改善を図る		
必要な個別支援を適切に行う			B		
地域社会に必要とされる知識・態度等の涵養		コミュニケーション能力、ビジネスマナーの涵養	C		
		資格取得につながる学習意欲の喚起	C		
教務	多様な学びへの対応	生徒の実態にあった教育課程・指導計画・学習成績評価を研究し、個別最適な学びの実現に努める	B	B	・生徒学習用端末の活用を促進させ、生徒の実態にあった学びを充実させたい ・より効果的な学校 PR を研究し、より一層 PR を充実させたい ・校務支援システムについて円滑な運用と出欠管理等の活用を進めたい
		学びの内容や進め方を工夫し、生徒の知的好奇心や能力が高まるよう授業を改善する			
		対話的な学びを通して生徒が主体的に学べるよう授業を改善する			
	学校 PR の推進	学校案内、郷英だよりの作成や、学校 HP の随時更新を行い、地域・中学校・保護者への PR を積極的に行う	A		
	情報管理の運営	学校全体のデータ管理、データ処理の援助を行い、校内 LAN システム、校務支援システムの円滑な運用を図る	B		
	校内ネットワークの管理	生徒が所有する学習用端末の持ち込み利用について、円滑な運営ができるよう支援し、ICT を用いた授業の促進を図る	C		
	PTA 主体の活動の活性化	PTA 総会等の PTA 行事への保護者の参加数を多くする	B		
学校行事において PTA と連携、運営し、PTA 会報による広報の充実を図る					
図書館利用の推進	図書館内の美化や図書の配置・配架を工夫し、利用しやすい環境を整備する	A			
	図書館通信や新刊案内の発行を通して、新着図書の連絡や読書の効用などを周知し、また、図書館行事などを工夫することによって図書館利用を活性化させる				
進路指導	生徒の主体的な進路選択支援	社会で活躍できる人財育成し、希望する進路決定のために、3年間を見通した進路選択支援計画を立案し、キャリア教育等を計画的に行う	B	B	・生徒の学習習慣の改善 ・進学希望者の支援充実 ・キャリア教育の計画を見直し、生徒が目標を見つけられるようにする
	進学指導の充実	合格実現と進学後に活用できる確かな学力の養成を図るため、課外授業、面接練習、小論文等の指導を行う	B		
	就職指導の充実	確かな学力の定着を図るため、各教科と連携し指導を行う	C		
生徒支援	規範意識の向上と基本的生活の確立	規則を遵守できるよう、集会やHRを通して根気強く伝えていく	C	B	・内規の見直しにより、年次関係なく、全職員で徹底、統一することで指導しやすい環境を整える ・問題行動への未然防止、早期発見のため更に巡回指導の充実が必要 ・移動教室時の教室の施錠や鍵の管理、金銭的貴重品の扱いを徹底する ・校内でのスマホの取り扱いについて国や県からの通知を踏まえ、改善する ・自転車通学者のヘルメット着用率を上げる
		言葉遣いや礼儀、身だしなみに重点をおき、全職員で協力して支援していく			
	問題行動の未然防止	生徒の発する小さなサインにも常に注意を払い、保護者や外部機関との連携を密にする	B		
		校内外の見回りを継続的に実施し、些細なことも看過せずその都度支援を行い、年次を越えての情報共有を徹底する			
	交通事故の未然防止	交通講話を年間1回実施し、年次集会やHRにおいても、交通ルールを遵守する態度を養う 自転車通学者のヘルメット着用率を上げ、安全意識を向上させる。また、歩行者としてのルールやマナーを身につけさせ、事故の未然防止を図る	B		
生徒の主体的な活動の支援	生徒会主体となる学校行事の活発化を図ることで、本校の生徒自治力を高める キャリアパスポート等によって、学習や生活に見通しを持たせ、活動について振り返りまとめることで、主体的に活動できるように支援する	B			

別紙様式 2 (高)

保健厚生	生徒・教職員の心身の健康の増進	風邪やインフルエンザ等の感染症、食事、保健室の利用状況等について情報を共有する	B	A	・校内研修の実施や、緊急時対応マニュアルの見直しなど学校安全に関する体制の整備に努める ・SCの活用の充実を図るために、教職員へ情報の周知に努める
		生徒、教職員の心身の健康保持増進をはかるため、積極的な広報と研修会を行う			
		防災避難訓練の計画と実施、非常時の安全対策を行う			
保健厚生	生徒の学習活動のための環境整備の充実	清掃指導の徹底、清掃用具の管理に努める	A	A	
		環境整備の一環として、販売業者との連絡調整を行い、円滑に昼食の購入ができるように支援する			
保健厚生	教育相談の充実	教育相談・カウンセリングを通して教員・生徒の支援活動をする	A	A	
		年次、SCと連携し、情報を共有して、困っている生徒の支援に努める			
1年次	基本的な生活習慣の確立	規則正しい生活の励行	C	C	・基本的な生活習慣および規範意識の定着 ・健全な人間関係の構築 ・進路希望の明確化
		欠席・遅刻・早退連絡の徹底 95%以上(家庭との連絡を密にする)			
		社会のルール、マナー、校則遵守による規範意識の定着			
	確かな学力の育成	授業内容の工夫と改善を図る	B	C	
		必要な個別支援を適切に行う			
		進路希望の決定 90%以上、目標達成につながる学習意欲の喚起			
文武不岐の実践	「あ・そ・ぶ・べ・な」(挨拶・掃除・部活動・勉強・仲間作り)の実践	C	C		
	学校行事、HR活動等意欲的に取り組む				
	健全な人間関係の構築				
2年次	規律ある授業環境の整備	授業前にチャイム着席、身だしなみ、学習環境整備の声掛けを行う	C	C	・規範意識の醸成 ・人間力の向上
	進路希望の確立	進路行事を充実させるとともに、年次集会等で進路情報の提供や担任面談等で進路希望の確認を計画的に行う	B		
	社会に通用する人間力の育成	挨拶や掃除、人間関係づくりに関する話を HR 等で実施するなど、人間力を高める手立てを効果的に行う	C		
3年次	自律した生徒の育成	集団生活において自己の役割を理解させ、学校や社会のルールやマナーを守り、秩序ある学校生活を送ることができるようにする	C	B	盗難等発生、未然防止という点において徹底できなかった面がある。その他の点については、保護者・関係職員との連携を含め、生徒の実態に応じて、それぞれの教員が対応してくれた。今後は、学校だけでは解決できない問題も多くなってきているため関係機関との連携という視点をもって対応していきたい。
		基本的な生活習慣を確立させ、欠席・遅刻・早退連絡を徹底させ、欠席・遅刻・早退を減らす			
	ひとり一人に応じた進路実現	進路に関する情報提供・指導・相談を進路指導部と連携して行う	A		
	全教育活動を通じた、進路を実現するための、確かな学力の向上	生徒の興味・関心が高まるような授業の実践	B		
安心・安全で落ち着いた学習環境の提供					

※ 評価規準 A:大変よくできた(達成度 100~80%) B:よくできた(達成度 80~60%) C:普通(達成度 60~40%) D:あまりできなかった(達成度 40~20%) E:全くできなかった(達成度 20~0%)